

会長立候補者の氏名、所属、略歴及び所信

フリガナ 氏 名	かしま しげる 鹿島 茂
所 属	中央大学理工学部、中央大学大学院公共政策研究科
略 歴	<p>1948 年生まれ。1976 年東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了(工学博士)。</p> <p>東京工業大学工学部助手、東京大学生産技術研究所講師、助教授を経て 1981 年中央大学理工学部助教授、教授、2005 年より公共政策研究科併任。</p> <p>交通計画の作成、交通手段の技術開発等の国、地方公共団体に委員会参加。現在中央環境審議会臨時委員。</p> <p>著書に「車依存社会(実教出版)」、「環境政策の便益(中央大学出版部)」、「地球環境世紀の自動車税制(劉草書房)」など。論文多数。</p>
所 信 :	<p>私は国土計画や交通計画を専門としてきましたが、神奈川県では環境審査会に、千葉県では環境会議技術検討委員会に、環境省では環境アセスメントの基本的事項検討委員会に参加する機会を得ました。こうした機会に環境アセスメントを専門とする方々と知り合うことが出来、環境アセスメント学会の設立にも参加してきました。学会では常務理事・学術委員会委員長を務め、環境アセスメントの理論面、技術面の向上の一端を担ってまいりました。</p> <p>今回、会長候補者としてこれまで知り合いになりました多くの方から推薦を頂き、大変光栄と感ずる一方戸惑いも感じました。</p> <p>私は、いま学会は創設期の情熱が若干冷め、方向が曖昧になって来ているように感じています。俗な言い方ですが、三段跳びで言うジャンプをし終わり、ステップの時期に入り、次の大きな飛躍のための力を蓄える時期に差し掛かっているのではないかと思います。こうした時期には、環境アセスメントを必ずしも専門としてこなかった者でも役立つのではないかと考え、お引き受けすることを決心いたしました。</p> <p>学会は参加した会員がそこで活動するのだという共通の意識が持て、自由に意見が交換でき、そして専門分野以外の知見をも積極的に取り入れ、生かしていく姿勢が保たれていることが必要ではないかと考えています。</p> <p>これまで多くの会員の方によって蓄積してきた環境アセスメント学会の財産を出発点とし、関連する多くの分野の研究者、実務に携わる方々がこの学会でさらに一層活動され、その結果を社会に積極的に発言していけるよう学会の一層の充実と発展を目指して努力していきたいと考えております。</p>